

・・・雨でも休まず、180回、181回・・・

## 「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：小原本陣の森：12月 3日：第一土曜日、森林整備、参加費300円  
弁当持参 9時15分、JR相模湖駅。車分乗で行く。  
活動後、泊まりで花咲村になだれ込む計画あり。
- ・定例活動2：若柳嵐山の森：12月18日：第三日曜日、里山交流、参加費500円  
主食のみ、箸・椀・皿自分の食器持参のこと。
- ・特別活動1：伊勢原見学：12月 4日：第一日曜日、伊勢原森林里山研究会と合流する。  
弁当持参 8時30分、小田急伊勢原駅、森活動と製材工場視察
- ・特別活動2：甲州古道復活：12月24日：第四日曜日、10時、小原本陣
- ・
- ・服 装：汚れても良い格好、着替え、滑らない足元。
- ・持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証。  
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしない心構え」

あなたは知っていますか・・・？

オゾン層にあいた穴はどうやってふさぐのですか。

1992年、国連のリオ環境サミットでカナダの少女が、次のように訴えました。  
「・・・、砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか教えてください。  
どうやって直すのかわからないものを壊すのは、もう止めてください」。

その少女の悲痛な叫びを受けて森林破壊を心配する人々が翌年1993年、「NGO森林管理協議会；FSC」を発足させました。そのことを日経新聞紙上でWWF（世界自然保護基金）が伝えているのを読んで私たちは、森林活動を始めました。森林を全く知らない都会から来た素人集団である私たちに何ができるかわかりませんが、その少女の想いとWWFの訴えに共感しました。以後、雨でも休まず・・・と森林整備活動を続け9年目になります。気が付いたら私たちの森は、FSCの定める基準に達していると言われ認証されました。

「0、数%の森林専門家だけの森林活動では地球の森は救えません。99、何%の私たちのような世界中の普通の人々の自覚」があつてこそ可能です。

皆さん、地球温暖化とか森林破壊という問題を大きすぎるから言って国連や政府に任せないで自分の問題だと考え、行動に移さねばなりません。全ての人々との行動のみが問題を解決できます。今は、ITの時代です。これを使えば私たちのような普通の人々でも、林業行政やFSC本部と協働して世界に森林を守れと訴えることができます。

## 活動報告1：小原本陣の森、森林整備

報告 佐伯みちよ

11月5日、第一土曜日定例活動日の「小原本陣の森」に20名の猛者が集った。活動は、作業道建設班、間伐班、作業小屋建築班と3班に分かれて取り組んだ。作業道は先月、大枠できていたが、急斜面で未完成だったので間伐した木を利用して、こまめに階段をつけた。一日中、重労働の土木作業で、さすがの大日向隊長さえ「ひい～」と裏声が出たほどだった。これで、荒れたままの森への向かう作業道は完成したが、林道入り口から見上げるカーブを描いた長い階段は我ながら、つい登ってみたくなる見事なできばえで、ここが遊歩道のように見えて、満足・満足。

昼前、行政センター森林部の指導員小島さん、小笠さんが見えて「協力協約整備」の詳しい説明を受けた。お二人は、私たちに分りやすく説明するために森の斜面に10m平方の枠を作り、選木マーキングして、これにより、間伐率の説明や、選木するにふさわしい木はどれか、育つ木、育たない木の見分け方、協約条件を満たす枝うちの方法、事故・怪我しないための作業方法・注意点、実に親切に、丁寧に、分りやすく説明してくれた。

1日の作業を終えて集合広場に戻ると、未完ながらもモマハウスが立派に設置されていた。ハウスキットを数ヶ月、森に置いておいたため木が反って、小屋建設班も悪戦苦闘を余儀なくされた模様。それでも、いつものお楽しみ・ムササビ亭が開店して大いに盛り上がった。

(後日談：翌日、休みの日に指導に出向いてくれた森林課の小笠さんにお礼の電話を掛けたら、

「いやあ～、驚きましたよ、ボランティアといつても凄いですねえ～、あそこまで役割分担ができる技術を持っているとは想像もしませんでしたよ。いやあ～、たいしたもんだ」と褒められので・・・嬉しかった。

石村記

## 活動報告2：若柳嵐山の森（里山交流）：森神に捧げる祭り

1998年11月20日に第1回活動を雨でも休まずと「相模湖・与瀬の森」で活動を始めて丁度、9年目の今日、2006年の11月20日は、179回目になる。

先月、国際規準の森林管理規準に達したと認証章が送られてきた。そこで、この日を森に感謝する行事に位置付け、午前中は儀式行事、午後はお楽しみ会を実施することにした。また、この行事は、楽しく・面白い内容にして地域の人々



森の神様と森を貸して下さる鈴木重彦オジイサンに報告した。



認証された今ではもう、素人と言えないでしょうが「0、数%の玄人により、99、何%の世界中の素人の自覚こそ地球の森林の荒廃・減少を救える」というのが私たちの主張です。森仲間の皆さん、これを沢山の人々に伝えようではありませんか。

私は、認証されて改めて森のことと殆ど知らないことに愕然としています。また、認証を得たことで生ずる社会的責任の重さを感じています。5年前、認証の1号

なった速水 亨さんが「新たな使命・責任を持つことになってしまった」と言っておられましたが、私たちもそれを共有することになりました。新たな出発に向けて何をすべきか皆で考え行動する時がきました。

その他の報告1：運営会再開。。。新たな出発に向けて、運営会を以下の内容で再開する。

日 時：三ヶ月毎の第二土曜日(1月、4月、7月、10月) 午後2時～5時  
場 所：渋谷・マルモ出版本社：渋谷区道玄坂1-20-1  
大沢ビル5F: 03-3496-7046

#### 再開第一回目(10月29日)の内容

- 1、現状確認；森をつくる・つなぐ・いかす、特に「いかす事業」に就いては、事業推進センターとそれを支える「森林と都市をつなぐ活動・協議会」を説明した。  
また、会計システムと9月末収支詳細を報告。
- 2、認証取得後の活動方向
  - 1) 活動存続に耐えられる基盤つくり
    - イ、活動基盤強化：つくる、つなぐ、いかす運営体制強化
    - ロ、財政基盤強化：商品開発：家・丸ごとFSC製品：家、家具建具、インテリア、
  - 2) 森林の荒廃、減少を阻止するこの活動を「若柳嵐山の森」に止めず全国・世界に広める。
    - イ、県と協働して広報する：県の担当部署と話を進めている。
    - ロ、見学者が増えるだろう：FSCの森入門ガイド編を作る。
    - ハ、緑のダムHPに英語欄を新設しFSC本部に送る。

その他の報告2：匠の市：緑のダム北鎌倉

報告 兼松まゆみ

11月2日～3日、川下・北鎌倉での活動は2年4回目、最初は「森林NPOが何故、鎌倉に?」と、チョット、違和感を覚えられたようですが、今では全て何もかも運搬もノコ引き体験も、指導も、全てもう何年も私達、この町つくりに関わってきたように思います。

との交流にも役立てようとする試みもある。肌寒い冬の気配の快晴、86人が集った。先ず、園田総隊長の先導で参加者全員が森の入り口の森神様に報告と感謝の祈り、次いでここを貸して下さる鈴木様にお礼を申しあげた。

さて、森林活動は、全員参加の全山グルリー回り、約2時間コースのオリエンテーリングは迷子にならないよう要所・要所にベテランを配し、葉っぱ探しとノコ引き体験、正しいルートめぐりを点数制に取り入れた。準備は丸茂仲間をリーダーに森のベテランの合作となつた。オリエンテーリング1位は、初参加の中嶋美幸ちゃんとお母さん。



グルリ森を一周、オリエンテーリングのルールを説明する丸茂仲間。

午後のお祭りは、仲間たちがMLで連絡を取り合いながら自由に、思い思いに、勝手に屋台を出すことにした。焼きそば、チーズ・ソーセージの燻製作り、焼き芋、ダッヂオーブン、温かい豆腐の味噌汁、味ご飯、わた飴、お茶席、生ビール、焼酎、お酒、ソフトドリンク、コーヒー。。。とまあ、良くぞこれだけ集つたものだと呆れてしまう。しかも、全屋台が基地広場に思い思いに店開きしたのだが、それぞれが邪魔にならない程度の距離間を保つて整然と賑やかに、完全に森に調和・共生している。一通り、腹が満たされたところで森に捧げる音楽会を開催した。

東京芸大でも教えていたるスシャマさん（ネパール人）のシタール演奏は見事で、感激屋のおいら、涙ウルウル。この人は、故国の向上心に燃える女子学生に演奏収入を送金しているところで、誰が回したかヘルメットの募金箱には、お礼を合わせて40、990円もの支援できた。

当会活動は、仲間たちの会費・参加費、自然保護団体の支援金、森林製品販売で成り立っているが、外国の貧しい学生たちにそれぞれに仲間たちが自分の懐から自発的に支援金を提供するという崇高なる陰徳の行為にまたもや涙ウルウル。

定刻には「森のお祭り」は終了したが立ち去りがたい仲間もいて、つるべ落としの陽の落ちた森は5時近くまで人影があった。何時しか皆の帰つた暗くなつた森には、ゴミ一つ落ちていない静寂が、戻つていた。今日の至福に思いを馳せ一人、おいら7時すぎまで焚き火を見つめた。

## 重要な報告：FSC認証

認証機関SGSジャパンから以下の認証証を受領しました。

### 森林管理

認証番号 FSC-FM / COC2323  
認証年月日 2005年10月25日

### 流通管理

SGS-COC-2331  
2005年10月31日



私たちのフィールド・東慶寺の間伐竹を捨てないために「東慶寺・竹炭」を出来ないかとアレコレ、考えをめぐらせていましたが、関谷の炭焼きグループが「手伝ってあげましょう」と訪ねてこられ次いで、山崎のグループも訪ねてこられました。沢山の人々とのご縁を齊藤リーダーの嬉しそうなニコニコ顔をご想像下さい。

### その他の報告3：小原本陣祭

11月3日、文化の日、雨模様も上がってさわやかな秋空が広がっていく中、12回目の本陣祭が開催された。来年3月20日に相模原市と合併する最後の相模湖町としての開催である。資金のない中、小原町の人々が歯を食いしばってお金を出し合って続けたこのお祭が今後とも続けられるか、どうか。開会の挨拶では西川町内会長の言葉に、寂しげな雰囲気が感じられた。

緑のダム仲間たちは、川崎の千葉さんら12人、藤野から7人、森仲間大坪さん他4人が参加した。小原の郷に屋台・露天店が沢山、出て雰囲気を盛り上げた。大行列は絢爛に、祭は盛大だった。こんな素晴らしい文化がどうして消えるのか・・、いささか怒りを感じた。

翌朝、永井さんと小碇さんに祭り成功のお祝いの電話をした。そして、「緑のダム」何かお役に立てるものだろうかと訴えた。小碇さんは、以下のように言った。

「それがですねー、相模原市幹部職員、市民、市会議員が大勢視察に来て、何んとかしなくてはねー、の声が沢山、ありました。もしかしたら・・・の希望が見え始めています」という。継続して文化を後世につながなければならぬ。

### その他の報告3：兼松邸見学と商品開発

鎌倉の閑静な住宅街にある県産材こだわりの室内オープンスペースは、新しい木の香で満たされている。見学会後「家丸ごとFSC材、インテリア・イクステリアも、生垣も・・」。

商品開発会議では、話が来ているシュタイナー学園校舎建設をケースタディに先ずは、机・椅子などで進めることにした。

陽が落ちて気温の下がる時間に



流域材にこだわった兼松邸・・木の香が心を穏やかにしてくれる。

なっても商品会議室の室温が下がらないのは、床下に敷き詰めた木ブロックのせいだとか、木自体が太陽エネルギーの蓄積物なのだから、当然といえば当然。

### 活動アンケート3、回答。

FSC本審査に際して提案されたご意見を公開して活動の見直しとして活用させていただいています。前回までは「活動に対する」ご意見でしたが、今回は「会の運営」に対するご意見です。以下、漸次、検討を加え改善を進めますが皆さんから反論、対案、提案、ご意見をお寄せ下さい。

#### (全般的な会の活動に対する意見)

**提案：**現在、事務局の石村氏と同夫人による事務一般、会計が集中し、相当の負担をかけている。

今の会の資金状況では、専従職員を考えにくいが、今後の発展のために早い時期に事務職員（パート）を採用すべきである（正会員）

**回答：**法人になった当初、事務局長とその家族に事務・会計が一つであることは問題だと紛糾しました。全くその通りです。

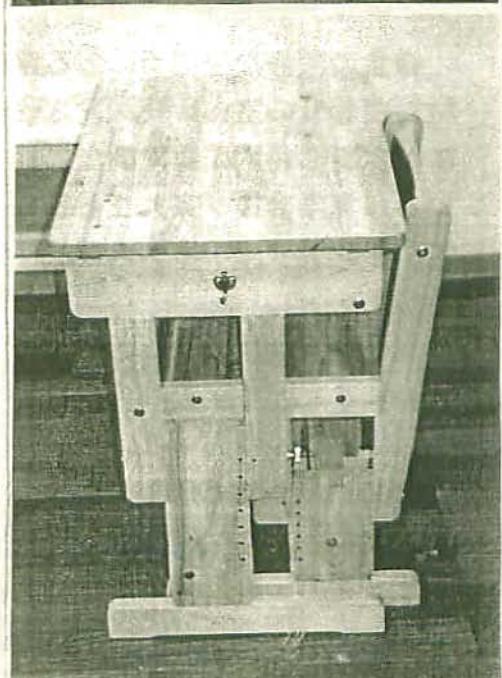
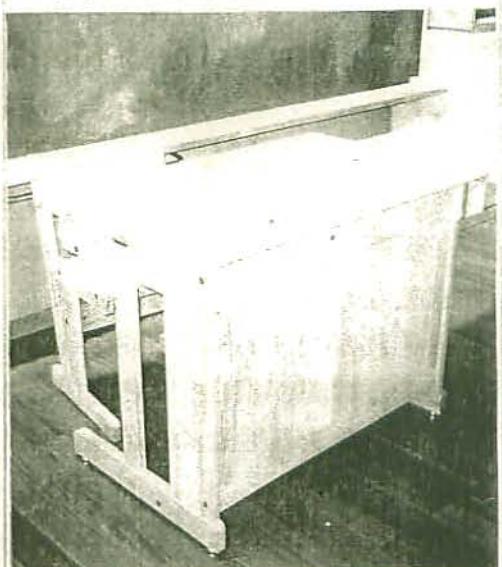
「では、あなたにお願いします」と問題視した方、数人にお願いしました。「いや、自分はいいよ」と全員から断られました。補助金、支援金の監査には、領収書1枚1枚の説明が求められます。膨大な作業量です。締め日が近づくと徹夜の連続になります。徹夜しても無給ですから断られるのは当然です。会計の正当性・公開性を確保するため、監査を鹿嶋田さん、大坪さんのお二人にお願いしています。折に触れ会計は、公開しています。

森林に特定した商品開発に努めていますが、まだまだ、当会の主な資金源は、県の補助金か自然保護団体の支援金です。支援金は殆どが事業費だけが対象で、管理費である事務費や間接費は経費として認めてくれません。資金源は、兼松さんや大坪さん、清水さん、丸茂さん等モマハウス販売など少し改善されつつあります。少なくて申し訳ないがと寄付金をくれるお仲間もいます。

県と協働事業を始めてから会計事務は外注に出しています。が、その分、お金つくりの重荷がのしかかってきます。もうこれは、いたちごっこです。

このような提案はありがたいのですが提案より実践が欲しいというのが本音です。NPO活動を維持する最大の課題は、資金つくりです。森の活動では、随分とお世話になっていますがあなたも是非、資金つくりの実践にご協力を下さい。

我々の森のFSC材でこのような「檜・学習机・椅子」の計画をしていく。子供たちに木のぬくもり、森林の大切さも教える。



製材の見積りが2倍強。なぜか。

理由はこうです。神奈川県は木材の搬出林道が少ない、製材所も小規模で作業効率が悪い。注文があるたびに少量注文する、まだまだ、あります。他県では輸送費の補助が付くそうです。

更におかしなことに同じ県産材の製材でもかなりの価格差があります。それは上記のような少量注文と機械の性能が原因です。集材、運搬、数量、製材機の性能、在庫タイムラグなど製材所ごとに大きなばらつきがあって競争原理も働かないようです。

今回の現場は、是非とも県産材でやろう、何が問題点か知りたいと強い想いがあるので赤字覚悟で県産材に拘って取り組んでいます。出来る今、問題点を整理しておかなくてはなりません

何故、県産材にこだわるか。この連載の1回目とダブりますが、私たちが飲んでいる水は上流の山が生きていないと健全な水環境とは言えません。森が活性化されないと川も海も死んでしまいます。地場木材を使うと輸送エネルギーも少なく地球温暖化抑制に繋がります。木を使う（伐り出す）ことにより森が生きてくるのです。県産材住宅を沢山建てれば、森が都市に移動したことになります。都市の住環境も良くなります。子供たちにより良い環境が残せます。

1棟では赤字ですが問題点を洗い直して解決への途を探る。需要を掘り起こし供給を安定させる。このようにして価格を抑える努力をする。今回の現場から現場管理費を抑えながら仕事を抑えます。ここでは赤字解消の答えを出せませんが、問題点の抽出と具体的な対策を打つことで「木を使うことが森を生かす」につないで行きます。

### 森のお祭り1、・・・森は限りなく優しい。



竹蒸しご飯



ゆっくりと時は流れる



まき割り大会



バウムクーヘンに挑戦

## 森のお祭り 2、

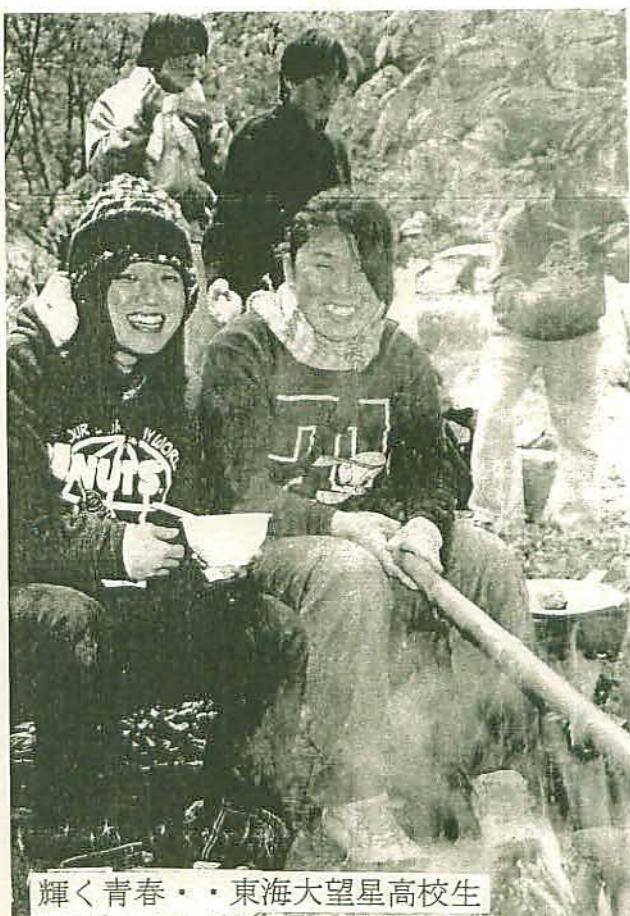
森がこんな楽しいことを準備してくれていたとは、誰も予想できなかつた。

森林は、木を伐る人にさえ木陰を与える。

— 釈迦 —



森に捧げる 演奏: Mrs., Sushma



活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと。。  
そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称 : さがみ湖・森つくりの会 : N P O 法人 緑のダム北相模  
事 務 局 : 1 5 4 - 0 0 2 3 東京都世田谷区若林 3 - 3 5 - 9  
石村 黄仁 T & F 0 3 - 3 4 1 1 - 1 6 3 6

H P : <http://midorinodamu.jp> E-mail : [moritomo@rk9.so-net.ne.jp](mailto:moritomo@rk9.so-net.ne.jp)

協働団体 : 神奈川県(企画部、津久井行政森林部),  
ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川建具組合  
東急コミュニティ